

北の生物多様性を 守るために

研究者・拠点施設と市民活動は、どう連携できるか

【ごあいさつ】10:00～10:10

北海道の環境活動のネットワーク「きたネット」の年に一度のフォーラム。北海道の生物多様性を守るために、今、市民ができることは何か。何を学び、誰とつながるのか。環境を地域の力にしていくために、環境活動者ができることは何かを考え、次の実践につなげます。

定員
120名



齊藤 慶輔 氏

【基調講演】10:10～11:10 野生の猛禽を診る・守る

～日本とサハリン、猛禽類保全活動の現場から

講師／齊藤慶輔 氏 猛禽類医学研究所 代表 獣医師

生態系ピラミッドの頂点にいる猛禽類を守ることは、野生動物と人間を取り巻く自然環境を丸ごと守ること。釧路市を拠点に猛禽類の治療・保全活動に取り組む齊藤獣医師に、傷病・死亡原因を究明し、これを元に人為的な軋轢を軽減・予防するための生息環境の改善(環境治療)の取り組みや、ロシア極東サハリンにおける調査活動などについてお話いただきます。

12/10 (土) 10:00～17:30 (※9:30受付開始)

【会場】札幌エルプラザ2F 環境研究室(札幌市北区北8条西3丁目)

【参加費】きたネット会員・学生/1000円 一般/1500円

事前申込要 詳細は裏面をごらんください

【環境中間支援会議・北海道共催プログラム】

研究者・拠点施設と市民活動のつながり

～コミュニケーターとしての市民参加

【話題提起】11:20～12:20

■現場と協働した 大学院での人事育成

山中 康裕 氏 北海道大学大学院環境科学院 教授

■北大総合博物館を拠点としたネットワークがめざすもの

大原 昌宏 氏 北海道大学総合博物館 教授 副館長



山中 康裕 氏

大原 昌宏 氏

定員
60名

【休憩】12:20～13:20

【分科会】13:20～15:20

分科会AorBの
どちらかを選択!

定員
60名

【分科会B】

野生との距離感、 共生のリテラシー

コーディネーター
／山本 牧 氏

NPO法人もりねっと北海道 代表

- 現状と課題
- 鉛弾規制から、次の一手を考える 齊藤 慶輔 氏
- 対談 山本 牧 氏×齊藤 慶輔 氏
「ヒトは、共生を学ばなければいけない」

【分科会A】

環境中間支援会議・北海道 連続勉強会 地域を元気にする施設、施設を元気にする地域

～地域・市民・施設の共創～

【事例1】美幌博物館「小さな町の大きな博物館」

町田 善康 氏 美幌博物館 学芸員

【事例2】「地域と環境情報施設の共創による地域資源の活用」
～種差海岸インフォメーションセンター

町田 直子 氏 NPO法人ACTY 理事長(青森県八戸市)

■ディスカッション「地域と環境学習施設の共創について考える」
コーディネーター／大原 昌宏 氏



町田 善康 氏

町田 直子 氏

学び・伝え、拡げるために 分野別 情報交換会 15:35～17:10

【進行協力】

高木 晴光 氏 (黒松内ぶなの森自然学校 運営委員長)

能條 歩 氏 (北海道教育大学 岩見沢校 教授)

内山 到 氏 (公益財団法人北海道環境財団・きたネット理事) 他

【活動紹介】

CISEネットワーク、学芸員ネットワーク、きたネット 他



使ってみよう!
CISEネットワークの
トランクキット!

kita-net forum 2016

17:10
～17:30 まとめ～閉会

18:30～ 交流会

(会場未定・実費・事前申込要)